



明けましておめでとうございます。

公益社団法人徳島県宅地建物取引業協会の皆様には、輝かしい新年をお健やかに迎えの心からお慶び申し上げます。

また、日頃より不動産業界の発展に多大なご尽力をいただくとともに、社会問題となっている「空き家・空き土地」に関しては、地域に眠る宝として利活用を図る「相談業務」を実施されるなど、本県の住宅・建築行政をはじめ、移住促進にも格別のご理解、ご協力を賜っておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

去年は、平成から令和への改元、七色の虹がかかった「即位の礼」、県内で作られた麻織物「匳服」が調進された大嘗祭など、日本中が新たな時代の幕開けを実感する一年となりました。

一方、広範囲で土砂崩れや河川氾濫をもたらした台風19号はじめ自然災害が相次ぎ、もはや想定外は許されない中、全国知事会会長として、全国の知事とともに、被災地支援はもとより、「事前復興」と「再度災害防止」を基本に、国土強靱化を進めるよう政府に要請、「被災者の生活と生業の再建に向けた対策パッケージ」として具現化しました。

県内では、「阿波藍」が紡ぐ歴史・伝統芸能が「日本遺産」に認定され、踊りの輪が世界を繋いだ「世界阿波おどりサミット」、徳島インディゴソックスの「独立リーグ日本一」、徳島ヴォルティスのJ1挑戦など、徳島の文化・スポーツが大きく躍動するとともに、消費者庁と本県との共催による日本初の「G20消費者政策国際会合」はじめ、エシカルな輪を広げた「食品ロス削減全国大会」や全国初、高校生による「エシカル甲子園」など、全国をリードする本県の「新次元の消費者行政・消費者教育」が国内外に強力に発信されました。

さらに、「地方創生の旗手」として、一歩先の未来を具現化してきた本県の取組みが評価され、

100万人以下の県及び四国から初となる「全国知事会会長」に選任されました。国と責任を共有する「より一層行動する知事会」を掲げ、人口減少・災害列島「2つの国難」や全世代型社会保障改革への対応はじめ、これまでの常識が通用しない未知の世界に積極果敢に取り組んできました。

さて、今年の干支は「庚子（かのえ・ね）」。「庚」は、これまでの流れを痛みを伴って「更新」する事を表し、十二支の初めに返った「子」は、「陽気の到来と増殖」を暗示します。そこで「庚子」は、「混乱の世から新たな相が現れ、痛みを伴うものの陽の新時代が幕を開ける」とされます。

今年、「5G」の商用サービスが開始され、「IoT・ビッグデータ・AI・ロボット」など第4次産業革命の技術が織りなす「Society5.0時代」が本格的に到来するとともに、多様性と調和をコンセプトに「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開幕します。

ホストタウン相手国4か国の「事前キャンプ」が県内各地で実施され、本県文化芸術の拠点「文化の森総合公園」は開園30周年を迎えます。県民の皆様の夢と希望を育むレガシーを創出するとともに、消費者庁の新たな本庁機能「新未来創造戦略本部」との連携では、SDGsの推進をはじめ、未来に向けた消費者行政の発展・創造に繋げて参ります。

「日本の未来を託す」と称された地方創生の第2幕、「知恵は地方にあり」の旗の下、Society5.0の実装はじめ、課題解決の処方箋をタイムリーに打ち出し、日本全体をSDGs・持続可能な社会へと導いて参る所存であります。宅地建物取引業協会の皆様におかれましては、なお一層のお力添えを賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

結びに、本年が貴協会の皆様にとって実り多き年となりますことを、心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。